



## 国際交流活動2012年

国際交流担当理事 横田 篤

去る10月23日(火)～26日(金)に神戸国際会議場で開催された日本生物工学会第64回大会における国際交流関連行事について報告する。

**■生物学アジア若手賞** 本年度は第9回目となり、中国の若手研究者Jingchun Tang博士(Nankai大学・教授)に対して授与された。対象となった研究題目は、Reaction evaluation and new process design in composting of biological wastesである。同氏は博士を名古屋大学で国費留学生として2004年9月に取得後、同大学や神戸大学でPDとして研鑽を積まれた経歴を持たれる。残念ながら受賞講演をキャンセルされ、授賞式への参加となったが、同氏の今後益々のご活躍に期待したい。

**■生物学アジア若手研究奨励賞(The DaSilva Award)** 本賞は本年度から新設された賞で、微生物に関連するバイオテクノロジーの分野で、近い将来に顕著な研究業績をあげることが期待される35才迄のアジアの若手研究者に対して授与される。第1回目の受賞者は中国の女性研究者Li Zhang博士(Chinese Research Academy of Environmental Sciences・講師)で、対象となった研究題目はTreatment capability of an up-flow anammox column reactor using polyethylene sponge strips as biomass carrierである。同氏の今後のご活躍に期待したい。

**■韓国生物工学会(Korean Society for Biotechnology and Bioengineering, KSBB)との人物交流** 日本生物工学会とKSBBとは学術交流協定に基づき、双方の年次大会において数名の招待講演を実施することで相互交流を続けているが、今年は9月20日から21日にテグ市にて開催されたKSBBの秋季大会に、原島俊会長を団長として、本年度の各賞受賞者のうち、大河内美奈先生(斎藤賞:名古屋大)、熊田陽一先生(照井賞:京工繊大)、渡辺大輔先生(江田賞:酒類総研)の3名が訪韓し、受賞内容に基づく発表を行った。また、今大会では3題の招待講演が、大会2日目24日午後にKSBBセッションとして行われた。招待講演者はGyoo Yeol Jung准教授(POSTECH)、Dong-Myung Kim教授(Chungnam大学、KSBB国際交流担当理事、2008年度生物学アジア若手賞受賞者)、Ki Jun Jeong博士(KAIST)の3名であった。

**■交流会議** 大会3日目の25日午前中に、今後の両学会間の交流方針その他について意見交換が行われた。以下に議事の要点を記す。本会からは、原島会長、園元副会長、池庶務担当理事、高木英文誌担当理事、松井産学連携担当理事(国際交流兼務)、筆者が出席した。

1) 今後の交流形態について: 交流の活性化について意見交換が行われた。KSBBとしては、現在SBJからの訪韓がKSBB秋の大会時に年1回のみであるが、これを春の大会を含めて年2回にできないか、また、現状では上述のように訪韓したSBJの若手受賞者が異なるテーマで一つのSBJ-KSBB合同セッションの中で発表するためテーマが絞れず、聴衆が集まらないのが問題である、との意見が出された。協議の結果、SBJの若手受賞者にはテーマ別に適合するセッションで発表してもらい、その場合でも交流活動の一環であることが分かるようにSBJ-KSBB合同セッションというサブタイトルを冠することが提案され、また、SBJとしては従来の年次大会毎の招待講演による交流を続けながらも、新設する予定のSBJシンポジウムにKSBBのメンバーや他の海外研究者を招待してセッションを作る新たな交流の機会を計画中であることを表明し、いずれも了承された。

2) ジャーナル出版についての意見交換: Asian Federation of Biotechnology (AFOB) が企画するジャーナル(Biotechnology Journal, Wiley)との関係について、互いに既存のJBBやKSBBのBiotechnology and Bioprocess Engineering (BBE)と競合するような内容にすべきでない、とAFOBの担当者に伝えて行くことで合意した。

今大会では初日23日の90周年記念式典の中でKSBBを代表してYong Keun Chang教授(KAIST, KSBB会長)によるご挨拶があった(写真1)。また、大会2日目の24日夕刻には三宮でKSBB参加者の歓迎会(写真2)が開催され、KSBB参加者に配慮の行き届いた運営が行われ韓国側も大変喜んでおられたことを記す。



写真1. Yong Keun Chang教授



写真2. 交流会議にて